

明日の県立図書館を思う

小川秀幸さん(三重テレビ放送報道制作部部長代理)

県立図書館の利用方法

少し高価な本は、県立図書館の本をよく参考にした。貴重な全集などもあったりする。本を探すときにはまず県立図書館に行くので、市立図書館にはあまり行かない。特に地域資料コーナーは充実している。例えば名張の毒ブドウ酒事件に関するものなど、両論あるのがよい。しかし、いい本はあるが足が向かないということもある。その理由は、地域資料コーナーの本は禁帯出なので館内で何時間も読むしかないから。できれば借りて自宅や職場でじっくり読みたい。

レファレンスについて

レファレンスについては、どうやって訊いていいかが分からない。もっとPRしてはどうか。複写申込書の書き方などを訊いたときに、職員によって対応が異なることがあり、どうかと思うことがあった。

県立図書館らしさとは

まず思いつくのは、所蔵しているものが多いということ。高いもの、古いもの、専門的なものなど、規模が大きいということにもなるのかもしれないが。

自習の扱いについては市町とは差別化して止めてもよいのではないか。現在は中途半端な感じがする。

MILAI で県内の図書館の蔵書を調べられるのはよい。

県立図書館に対して思うこと

講座については、他の施設と連携するなどして情報発信をたくさんやれば面白いのではないか。

文学コーナーをもっと活用してはどうか。あるのを知らない人も多いのでは。例えば北園克衛関係の資料の展示をするなら、館内で1ヶ所にまとめればよいと思う。

市町のリサイクルフェアに出る本を、県が保存できる仕組みがあるとよい。ジャーナリストの黒田清さんの本が市のリサイクルフェアで出ていたが、そのような貴重な本が三重県内のどこにもないということがないようにしてほしい。

夜間も開いているとよい。例えば金曜は22時頃までとか。その時間だと書店でもまだ人はたくさんいるので、ゆったりと雑誌を読むだけでもよいと思う。

「県民のみなさんへ」の掲示の位置などを見ても、最近は少しサービスの意識が薄れているような気がする。

本は必ずどこかから借りている。心を揺さぶられるのは本。本の良さを分かってもらう機会がもっとあるとよい。